国分山遺跡遠景（南から　七尾湾を臨む）

方形周溝墓群と竪穴建物（西から）

七尾市 国分山遺跡　現地説明会資料

令和７年11月29日（土）
（公財）石川県埋蔵文化財センター

ホームページ
石川県埋蔵文化財センター を 検索

—歴史と出会える場所—

調 査 地　七尾市国分町地内
調査原因　一般国道 470号 能越自動車道　田鶴浜七尾道路
委 託 者　国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
調査主体　石川県教育委員会（調査担当：公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター）
調査期間　令和７年６月６日～同年１２月（予定）
調査面積　３，０００㎡（予定）
調査概要

本遺跡は、鷹合川と御祓川に挟まれた徳田丘陵の先端に近い標高約３２mの低丘陵上に立地しています。周辺の丘陵上には、細口源田山遺跡や国分尼塚古墳群など、弥生時代から中世にかけての墓域が確認されていることから、国分山遺跡でも同様に墓域の展開が予想されていました。

今年度の調査では、弥生時代後期～終末期（約2000年前～約1750年前頃）に造られた周溝の四隅が切れた４基の方形周溝墓や竪穴建物などが見つかりました。弥生時代後期の方形周溝墓としては、中心にある埋葬施設の規模が大きく、北陸では類例の少ないものです。

複数の木棺墓が1号墓の周辺で見つかり、その内の１基(木棺墓２)からは複数の勾玉と管玉が良好な状態で出土しました。埋葬施設の多くは現在も調査中で、今後、墓壙から副葬品の出土が期待されます。

その他には、縄文土器や古代の須恵器、中世の青磁などが見つかっており、現代に至るまで様々な時代の人々が丘陵上で活動していたことがうかがわれます。

周辺の遺跡

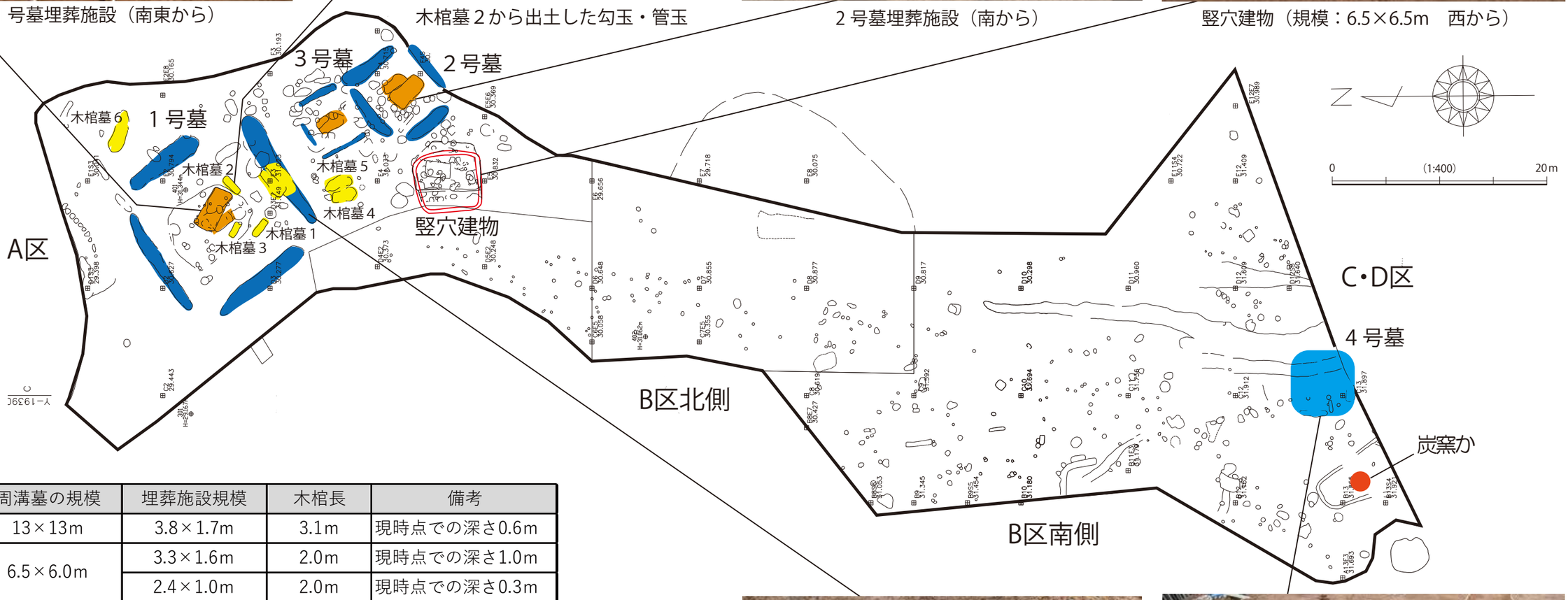
西 暦	時 代	周辺の遺跡
10000頃	旧石器	
	縄 文	
300頃 B.C / A.D	弥 生	細口源田山遺跡 国分山遺跡
250頃	古 墳	国分尼塚１号墳
710	奈 良	
794	平 安	能登国分寺跡
1192	鎌 倉	
1338	室 町	
1573	安土桃山	
1603	江 戸	
1868	明治 大正 昭和 平成 令和	

1号墓埋葬施設（南東から）

木棺墓２から出土した勾玉・管玉

２号墓埋葬施設（南から）

竪穴建物（規模：6.5×6.5m　西から）



方形周溝墓

	周溝墓の規模	埋葬施設規模	木棺長	備考
１号墓	13×13m	3.8×1.7m	3.1m	現時点での深さ0.6m
２号墓	6.5×6.0m	3.3×1.6m	2.0m	現時点での深さ1.0m
		2.4×1.0m	2.0m	現時点での深さ0.3m
３号墓	5.0×5.0m	2.4×1.5m	1.9m	管玉1点出土
４号墓	6.5×6.2m	2.9×1.5m	－	未発掘

木棺墓

	埋葬施設規模	木棺長	備考
木棺墓１	2.0×0.6m	不明	石鏃出土
木棺墓２	2.0×0.65m	1.8m	勾玉3点・管玉20点出土
木棺墓３	1.45×0.6m	1.6m	
木棺墓４	2.7×1.05m	1.9m	
木棺墓５	2.6×1.15m	2.0m	
木棺墓６	2.8×1.3m	約2.2m	

周溝内から出土した弥生土器

４号墓（南から）